



れんげそう

令和5年5月1日
福生第五小学校
学校通信第549号

真っ直ぐな竹のように

校長 泉田 巧人

早いもので、新年度が始まり一か月が経ちました。一年生をはじめ子どもたちは、新しい教室、新しい仲間にもすっかり慣れて、校舎からは元気な声がたくさん聞こえてきます。また、爽やかな風が吹く校庭では、木々に設置された巣箱に小鳥たちが巣作りのため出たり入ったりと偵察に来ているのが見られ、気持ちが和む季節となりました。



さて、4月に「たけのご御飯」が給食に出た日がありました。その日、自宅に帰ってみると、なんと晩御飯も「たけのご御飯」でした。幸運にも一日に2度もおいしいたけのご御飯を堪能することができ、春を感じるとともに、古来より、日本人の生活に身近な植物である竹について少し調べてみるきっかけとなりました。

竹は、イネ科タケ亜科に属する常緑性の多年生植物で、日本に生育するタケ亜科（タケ類とササ類）は約130種類にもものぼるそうです。竹の全ての節には、細胞が分裂して成長する「成長点」と呼ばれる部分があり、仮に節が40個ありそれぞれの成長点が1日に1センチメートルずつ伸びれば、1日で一気に40センチメートル成長することになります。これが竹の成長が早い理由だそうです。竹はしなやかに曲がっても元に戻り、簡単には折れません。これも、たくさんの節のおかげなんだそうです。竹の秘密は節にありでした。

「松竹梅」でも知られるように、竹はすくすくと真っ直ぐ伸び、成長も早く生命力が強いため、日本で縁起のいい植物とされており、お正月の門松等にも使われています。また、真っ直ぐ曲がらずに成長することや嵐のなかでも折れないたたずまいから、誠実な心や強い志の象徴としても用いられるそうです。竹のつく言葉にも「竹を割った様な性格」、「破竹の勢い」など、良い意味で使われるものも多くあります。さらに、なによりも福生市のキャラクターの「たっけー」は竹の妖精です。

本校の教育においても、一年生から六年生までの各学年で身に付けるべき力をしっかりと節でつなぎ、一本の竹のように真っ直ぐで、すぐに折れないしなやかな心をもつ子どもを育てていきたいと思っております。今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。